

平成31年度学校経営計画

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校

I. 学校教育目標 「生きる力を身につける児童の育成」

2020年の新学習指導要領完全実施に向けて、今年度は移行期間の最終年となります。昨年度の「特別の教科 道徳」に加えて、「外国語活動・外国語科」についても先行実施となることから、新しい時代に向けて待たなしの変革を進める必要があります。

では、新しい時代に求められる学力とは何でしょうか。改めて確認すると、新学習指導要領では、「何を知っていて何ができるようになるのか」という『知識・技能』、知っていることやできることをどう使うかという『思考力・判断力・表現力』、どのように社会・世界とかわりよりよい人生を送るかという『学びに向かう力・人間性』の3つの資質・能力として示されております。

学校では、「主体的・対話的で深い学び」のある授業を通して、新しい時代を担う子どもたちに必要な力（生きる力）をつけていかなければなりません。また、その中で業務改善も進める必要もあります。必要なものと不必要なものを精選し、『これまで通り』ではない」発想の下で、すべての教育活動を、子供たち一人ひとりの未来のためのもとなるように考えております。そしてそのためには、教員自身も、豊かな心で子供たちと接して信頼関係を深めるとともに、自己研鑽に励み、子供たちの頭も心も身体もしっかり鍛え、「生きる力」を育成する学校となるよう努めてまいります。

めざす学校の姿 「活力のみなぎる学校」

～チーム鎌小～

めざす児童像である

「“か”しこく “ま”じめで “が”つつがあつて “や”さしい “小” 学生」
を意識して、

「チーム Kamasyo（鎌小）」となって、

Katei（家庭）と Kouku（校区・地域）が常に連携して見守り、教え、
育てることで、

Kodomo（子供）が Kakki（活気）にあふれ活動（Katudou）している学校

- 子供、教職員、保護者が生き生きと活動している学校
- 子供が希望を持って、毎日の登校を楽しみにする学校
- 子供がすすんでよい行いをしようとする学校
- 子供も教職員も保護者も、みんなが健康で、安全な学校
- 子供も教職員も保護者も、自分の役割を意識し、
できることをすすんで行おうとする学校
- 学校・家庭・地域が連携・協力し、
見守り、教え、育てる学校

めざす児童の姿 「かしこく
まじめで
がっつがあって
やさしい
小学生」

- 「かしこい」子のイメージ
 - ・ 自ら課題を見いだせる
 - ・ 解決策を探そうとできる
 - ・ 助けが必要な人を発見する力がある
 - ・ 自分から学習する習慣が身についている
- 「まじめ」な子のイメージ
 - ・ 当たり前のことを当たり前で全力でできる
 - ・ 奉仕活動にすすんで取り組める
 - ・ ルールを守ることを意識できる
 - ・ 自分を振り返り、改善を図ることができる
- 「がっつがある」子のイメージ
 - ・ 最後までやり抜こうとする
 - ・ 挑戦し続ける気持ちを持つことができる
 - ・ 健康や衛生、安全に気を配ることが習慣化されている
 - ・ 体を鍛える
- 「やさしい」子のイメージ
 - ・ 誰に対しても、すすんで気持ちのよい挨拶や返事ができる
 - ・ 相手を思いやったり、気遣ったりすることができる
 - ・ おだやかで素直であり、いじめを許さない気持ちを持つ
 - ・ 感謝の気持ちを持って生活することができる

めざす教師の姿 「共に歩む、信頼される教師」
「か かしこさ
ま まじめさ
が がっつ
や やさしさ を追求する教師」

- 「かしこさ」を追求する教師のイメージ
 - ・自らがアクティブラーナーとして学習し続け、率先して自己啓発できる教師
 - ・「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりを進める教師
 - ・生徒指導の機能を生かしたわかる授業を推進できる教師
 - ・子供についての情報のアンテナの高い教師
 - ・感覚を研ぎすませて、子供に最適な指導・支援を行うことができる教師
- 「まじめさ」を追求する教師のイメージ
 - ・言行一致ができ、自分の言葉に責任を持つことができる教師
 - ・個人プレーではなく、組織の力を生かそうとできる教師
 - ・不祥事ゼロの組織を目指すことができる教師
 - ・謙虚で誠実な姿勢を持ち続けることができる教師
 - ・裏表や偽りのない心を持つ教師
- 「がっつ」を追求する教師のイメージ
 - ・行動力があり、自分からすすんで子どものために活動する教師
 - ・すすんで情報発信し、説明責任を果たせる教師
 - ・子供の健康や体力向上を、教育活動全体の中で考えられる教師
 - ・仕事に対して前向きで、粘り強く課題の解決を図ろうとできる教師
 - ・新しいことに積極的に挑戦できる教師
- 「やさしさ」を追求する教師のイメージ
 - ・子供に寄り添い、子供の立場を意識しながら指導・助言できる教師
 - ・積極的に他人の長所に目を向け、それを認めて、より伸ばすことのできる教師
 - ・子供とともに歩む姿勢を保ち続けることのできる教師
 - ・地域、保護者との連携を図るとともに、地域、社会の人材や資源を最大限に活用しようとする教師
 - ・ダイバーシティを活かす視点を持つことができる教師

II. 学校経営の基本方針

1. 「生命及び人権の尊重」を経営の基本におき、教職員、保護者・地域の協働のもとで教育目標を共有し、その達成を図る。
2. 新学習指導要領への移行最終年であることを意識し、校内研修等を通して毎日の授業の一層の充実に取り組むとともに、「主体的・対話的で深い学び」のある授業を通して、学ぶ意欲を伸ばし学ぶ喜びを高める。また、特別の教科道德の推進、外国語活動・外国語科の先行実施を円滑に進める。
3. 児童一人一人を共感的に理解し、深い信頼関係のもとに、好ましい人間関係づくりに努めるとともに、問題行動や課題の早期発見、早期解決が図れるような組織作りに努めるとともに、学校としての報告連絡相談を推進する。

4. 安全で、美しく清潔な学校環境づくりに努める。
5. ダイバーシティを活かす視点から、他者を受け入れてお互いを高めようとする心を育てる（「みんなちがって、みんないい」の発想）。その上で、『鎌小いじめ“0”』をめざし、いじめは、絶対に許さないという気風を、学校全体で確立する。
6. 保幼小中の連携を意識した特別な支援が必要な児童への支援体制を充実する。
7. 保護者・地域住民の願いや期待に応え、伝統を継承しつつ特色ある学校をめざす。
8. 全教職員にとって、常に能力を最大限に発揮でき、楽しく、生き生きと活動できる職場とする。

Ⅲ. 本年度の重点

1. 一人一人の力を最大限に伸ばす教育の推進

- ・児童理解を深め、子供一人一人の良さや可能性を認め、励まし、伸ばす。
- ・いろいろな場を通して、自分に自信を持ち、最後までやりぬく力を育てる。
- ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた、よりわかりやすく、より集中できる教育環境を整える。
- ・集団の中でダイバーシティ（多様性）を活かし、一人ひとりを伸ばすとともに集団の力を高める。

2. 確かな学力の向上

- ・「主体的・対話的で深い学び」が実現できるような授業作りを意識し、日々の授業改善に努める。また、子供一人一人の変容を実感できる授業研究を推進し、教師としての資質・力量の向上に努める校内研究の充実を図る。
- ・外国語活動の時間を充実させ、外国語に親しむ環境作りに努める。
- ・ねらいを明確にした繰り返し学習を組織的・計画的・継続的に取り組み、自己学習能力を高め、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせる。また、学校として、学習問題、まとめなどの板書・掲示の統一を図り、学級差が生まれにくい状況を作り出す。
- ・家庭学習と授業の関連を意識し、家庭学習の習慣化を図るとともに、授業に活かすことで学力の定着・向上を図る。
- ・読書活動（学校図書館の活用、読み聞かせ等）を充実させるとともに、読む能力を育てる。

3. 思いやりのある豊かな心を育む

- ・特別の教科道徳の授業を要として教育活動全体で、道徳教育の充実を図り、物事の善悪について自分で考えることのできる子供、相手のいたみが分かる優しい、思いやりのある子供を育む。
- ・『鎌小いじめ“0”』をめざして、友だちを傷つける「ちくちく言葉」を鎌小からなくすため、みんなで知恵を出し合い、互いに注意しあっている環境づくりに取り組む。
- ・気持ちのよい元気なあいさつ、返事の指導

『「はい」という素直な心、「ごめんなさい」という反省の心、

「ありがとう」という感謝の心、「私がします」という奉仕の心』

あいさつは「あ」かるく、「い」つでも、「さ」きに、「つ」づける、を意識

- ・ダイバーシティを活かす視点から、自分とは“異なる”存在を認めて受け入れようとするとともに、積極的に他者と関わって集団を向上させようとする態度を育てる。

4. 子供の健康と体力の増進を図る

- ・全教育活動を通して運動に親しませ、体力の向上に努める。
- ・健康・安全、食に関する指導を通して、正しい生活習慣の形成に努める。

5. 安全・安心で整備された学校の推進

- ・環境を自分たちの手で整えることの大切さを理解し、活動を通して、自主性・自発性や協働する心を育てる。
- ・安全な学校環境の確保・点検・整備に努める。
- ・交通安全をはじめ、日々の安全指導を強化する。
- ・防災、防犯、安全についての意識を高める教育の充実

6. 学校・家庭・地域の連携

- ・ホームページや学校だよりによる広報活動を積極的に行う。
- ・地域行事への参加・地域の人材活用に努め、社会と協働して教育課程の一層の充実を図る。
- ・「あいさつ」「家庭学習」「生活習慣」など家庭で育む「生きる力」を学校・家庭・地域が相互に連携し育む。